

## 箱根駅伝に出場した大学チームのように

校長 須藤 敏之

新年明けましておめでとうございます。13日間という冬休みでしたが、皆様はどのように過ごされましたでしょうか。ゆっくりとご家庭で過ごされた方、旅行や初詣に出かけられた方、帰省して親類や旧友に会われた方など、きっと素敵な年末年始、日々を過ごされたことと思います。

去年は、国内では元旦に石川能登地震の発生や闇バイトによる強盗事件の続発など、悲しいできごとが数多くありました。海外ではロシアとウクライナの戦争やパレスチナ自治区での戦闘が長期化するなど、戦争や暗いニュースもたくさん報道されました。それらの一部は今も続いています。一方、ドジャース大谷翔平選手による50-50の達成や日本被団協のノーベル平和賞受賞などの明るいニュースやできごともありました。今年は、明るい話題やできごとが多くなることを願ってやみません。

さて、正月の風物詩といえば箱根駅伝を思い浮かべる方がいらっしゃるのではないのでしょうか。我が家でも2日、3日の箱根駅伝のTV観戦は欠かせない行事となっています。箱根駅伝のどんなところが魅力なのでしょう。私は、大きく2つの魅力があると思っています。

1つは、個人競技でありながらチームスポーツであるという点です。誰か1人でも任された区間を走り切れない選手がいたら失格になってしまいます。箱根駅伝は1区間が20km以上あり、区間ごとに選手のタイム差、個人成績がはっきり出るのは陸上競技ならではといえます。しかし、自分のためだけでなく監督のため、仲間のためにと、もてる力の全てを出し切って走り、いつも以上の力を発揮して予想外の成績を残す選手も少なくありません。選手たちのそんな一途な想いが、TVの画面越しにも伝わってきます。もう1つは、大学の対抗戦である点です。箱根駅伝は関東地区の大会ですので、出場している大学は関東の大学に限られていますが、1つのレースで20大学（他1チーム大学連合）が同時に戦うことができるのは駅伝ならではの点です。TV観戦していると各大学のチームカラーがよく伝わってきます。たとえば、選手の後ろを伴走する自動車から各大学の監督がマイク越しに「男だろ!」「ここが勝負だぞ!」などと大きな声で鼓舞したり叱咤激励したりするのも見所の1つです。今年も私の母校と娘の母校も出場しており、応援には熱が入りました。今年の大会では、第10区の最終盤に8位から11位まで4人の選手がゴールまでほとんど団子状態となって激しく競い合っていました。わずか7秒という差で順天堂大の選手が11位となり、来年の大会（10位までに与えられる）のシード権を逃すことになってしまいました。その選手はゴール後に号泣、彼を迎え入れた選手たちも号泣していました。見ているこちらもジーンと胸が熱くなり、思わずもらい泣きしてしまいました。本番まで、どれほどの労力を費やしてきたことか図り知れません。その一生懸命の姿はたとえ負けたとしても、美しいというほかありません。

本校の教職員も、箱根駅伝出場の大学チームのように、一丸となり、本校に通うすべての子どもが成長し、学校での一日一日が幸せな日々となるよう、力を尽くしてまいります。

本年も、皆様の変わらぬご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

## 1月の目標

生活	言葉づかいやあいさつを正しくしよう。
保健	手洗いをしよう。
給食	準備や後かたづけを協力しよう。

# <1 月 行 事 予 定>

1	水		<b>★校内書き初め展について</b> 席書き会で書いた書き初め作品を1階多目的ホールに展示します。ぜひご覧ください。 日時:1月20日(月)~1月25日(土) 午前9時~午後4時30分 (25日は午後12時まで)
2	木		
3	金		
4	土		
5	日		
6	月		
7	火		冬季休業日(終)
8	水	B	始業式
9	木	A	給食始 避難訓練 委員会
10	金	B	安全指導日 席書会① 下校指導
11	土		☆
12	日		
13	月		成人の日
14	火	A	全校朝会 席書会②
15	水	B	発育測定(1年、6年) 4時間授業
16	木	A	発育測定(2年、4年、3組) クラブ
17	金	B	発育測定(3年、5年)
18	土		☆
19	日		
20	月	A	全校朝会 書き初め展(~25日) ことばの教室発表会
21	火	A	租税教室(4年)
22	水	B	
23	木	A	児童集会 朝日テレビ出前授業(5年)
24	金	B	
25	土	B	土曜公開日 ☆ 千代田スマートスクール 薬物乱用防止教室(6年) セーフティ教室(1~3年・3組)
26	日		
27	月	A	全校朝会
28	火	A	
29	水	B	ふれあいの会(2年)
30	木	A	科学センター発表 クラブ
31	金	B	防災施設見学(5年)

校庭開放☆

## 鉛筆・ノートとICT機器の境目をつくらない

情報主任

タイトルの「境目をつくらない」という言葉は、建築家ガウディが残した「境目があることを悲しいと思った」という言葉をアレンジしました。

本校では、学校長の示した学校経営方針や学校教育目標に基づき教員が児童の実態に合わせ、学校教育活動を考え、推進します。

授業では、「ノートや鉛筆を使って行う授業のよさ」と「タブレット端末を使って行う授業のよさ」を状況に合わせてどちらを使うか考えます。つまり、教科によってはノートに鉛筆で書く授業、タブレット端末で進める授業、どちらも活用する授業などたくさんの授業展開が考えられます。

これが授業における千代田小のスタイルです。授業者が45分という限られた授業時間の中で最良の手段としてどのように活用していくか、教員と児童のICTリテラシーの向上を心掛けながら、境目をつくらないで考えることが、児童にとってよりよい授業につながると考えています。

## 行事を通して

3年担任

3年生に進級してから早くも8か月が経ちました。新しいクラスや学習にも慣れ、落ち着いて学校生活を過ごすことができきています。

2学期は、多くの学校行事がありました。1学期は、苦手なこと、難しいことに消極的な部分も見られましたが、様々な学習や行事を通して、新しい挑戦に少しずつ前向きに取り組めるようになってきています。運動会や音楽会では、自主練習に励み、「難しくても、頑張っても何度も練習すればできるようになる!」という自信をつけることができました。社会科見学では、自分たちで見学したい所やルートを決め、積極的に学びました。

3年生もあと3か月。これまでの自分の成長に気づき、自信と意欲をもって4年生に進級できるように今後も支援してまいります。

## 登下校の通学路の確認のお願い

本校では、登下校の際の通学路について5つのコースが設定されています。

- ①バナナコース(岩本町方面)
- ②りんごコース(一八通り・東松下町方面)
- ③メロンコース

(JR 神田駅西口・内神田2丁目方面)

- ④さくらんぼコース(都営地下鉄淡路町方面)
- ⑤いちごコース(司町・内神田1丁目方面)

今一度お子さんと通学路についてご確認いただき、通学路を守って登下校するよう、お話しください。最近、通学路とは別のコースを歩く子が増えているようです。子どもたちが安全に登下校できるよう、ご協力をお願いいたします。